

<「知るっば！久留米」 令和3年11月25日(木) 12:30~放送分>

## 田主丸地域の魅力 ～第4回～ 「田主丸の伝統行事」

<ゲスト：久留米市地域おこし協力隊 黒田 俊光さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今月は、久留米市の東部に位置する『田主丸地域の魅力』をテーマにお送りしています。

ゲストはこの方です。

ゲスト:黒田さん(以下「黒田」)

こんにちは!久留米市地域おこし協力隊の黒田俊光です。

田主丸総合支所の地域振興課にいます。

移住定住につながる田主丸の魅力発掘と情報発信をしています。よろしくお願いします。

坂本 いよいよシリーズ最終回ということで、寂しくなりますねえ。

今回は、先週に引き続き『田主丸の伝統行事』というテーマでお送りします。

さてさて、前回のお話で田主丸は伝統行事が今もたくさん行われているのは、住民の皆さんの協力があるのが大きいということでしたね。

それだけ、地域のつながりも深いのかなという気もしますし、

こういった神事や伝統行事を個人的にも、そして地域おこし協力隊としての立場からも追いつけてこられて、何か発見のようなものはありましたか？

黒田 前回、少しお話ししましたが、久留米市で今も行われている伝統行事や神事の半分は田主丸で行われているという話をしましたよね。

1年間それを追いかけてきて分かったことは、

そのお祭りの中に実は今、世界中で話題になっている「持続可能な開発目標」、英語でいうとSDGsというものが存在しているということを悟ってしまったんです。

坂本 SDGsとは、「持続可能な開発目標」という言葉の略称ですよ。

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すという国際的な目標のことで、マスコミや行政の中でも非常に重要なことだということですよ。

黒田 最近、1日1回は聞く単語ですよ。

坂本 新聞やテレビ、ネットにもよく出てきますね。

そのような最先端の考え方と歴史的な祭りが、どうつながっているんでしょうか？

黒田 私が考えるに、お祭りは地域社会を反映する SDGs のバロメーターなんじゃないかと思います。例えば、しめ縄は、ご神事の当番の家が、わざわざ自分の田んぼで専用の稲を育てるんですよ。そして、稲を刈り取り、脱穀して、自分たちでしめ縄を作るんですよ。稲が育つ気候、稲を育てる田んぼがあるからこそ、このようなことができるということですね。他にも田主丸で行われている茅(ち)の輪潜りの神事は、茅の輪の材料になる葦(あし)を、近くの巨瀬川や筑後川から取ってくるということになります。

坂本 神事も地産地消で、地元にあるもので賄っていこうということですね。

黒田 しかも、加工業も自分たちでやろうということで、すごいですよね。今私、加工業って言いましたけど、しめ縄や茅の輪を作れる人がいて、しめ縄も通常とは違う特殊な巻き方で縄を作るので難しいんですね。その技術や神事の大切さを次の世代に引き継ぐことができているから、今も続いているんですよ。

坂本 世代から世代に技術や考え方を引き継いでいく。

黒田 そういったスタイルって、自然環境や農業(産業)、社会、このどの要素がひとつでも変わったり、欠けてしまうと、伝統行事の継承はできなくなるんです。SDGs は、持続可能かどうか指標になっていますよね。そういう意味で言うと、神事のシンボルとして使われるしめ縄や茅の輪は、地域社会の SDGs のレベルを敏感に示すバロメーターに他ならないと思うんです。

坂本 最後の回でなかなか深淵なお話になってしまいましたけども、とても大事な考え方ですよ。

黒田 その考え方が大事だと思うのは、既に田主丸のいろんな地区で、しめ縄が作れなくなったとか、材料を買わないといけないという話も聞きますし、世帯数が減ってしまい神事ができなくなった地区もあるという話を聞いています。今、数多く残っている神事やお祭りが、5年後、10年後にはどれだけ残っているのか、とても心配になりますね。

坂本 おっしゃるように、いろんなものが継承されていくことは大事ですし、それは実は地域のつながりによって守られているということですよ。神事と伝統行事が長く続いてほしいなと思いますね。

黒田 昔ながらの行事を続けられているということは、今後、日本の宝になるかもしれませんね。

坂本 地域のつながりというのは、今で言うところの「共生社会」にもつながってくるのかなと思います。ところで、黒田さんは地域おこし協力隊3年目の最後の年です。今後の活動や退任後の計画などはありますか？

黒田 いやあ、名残惜しいですね。

元々日本の歴史が好きでここに来ましたし、ここに来たら神事や伝統行事が多い。けど、今は、その継続が危ぶまれているということもあるので、今後は自分でもこの田主丸の神事や伝統行事のすばらしさを全国に伝えていきたいと思います。田主丸には、本当に昔ながらの温もりがあるので、そういうものに都会の人々は憧れますので、ぜひそういう部分を伝えていければいいなと思います。あと、田主丸のご神事を1年間見たにもかかわらず、全部は見れていないんですね。おそらく、半分ほどしか見れていないんです。なので、退任後は自由になった時間を使って、残り半分を全部見て制覇したいなと思います。そういう経験や知識をもとに、田主丸には農泊があるんですけど、農泊さんたちと連携して、神事だけではなく、準備やその後の直会（なおりい）というお神酒をいただいて食事をするという会があるんですけど、そういったことも観光で来た方が体験や見学できるようなプログラムを作っていけたらなと思っております。

坂本 この地域は田主丸のことを「たのしまる」って言うんですね。その由来というのは・・・？

黒田 田主丸の町名の由来は、実は、あるお経の一説に「楽しく生まる」とあるのが由来なんですね。

坂本 「楽しく生まれる」ですか？

黒田 そうです。私も田主丸にいて極楽だなんて思うのは、きっと町の名前からしてそう運命づけられているのかなと思います。

坂本 なるほど、締めとして非常によかったと思います(笑)

黒田 よかったー。ありがとうございます(笑)

坂本 黒田さん、ぜひね、将来に向かって、ご自身のやりたいことや勉強したいことをやりながら、この地域で未永く活性化の手伝いをやっていただければと期待しています。地域おこし協力隊の黒田さん、4回にわたって興味深いお話をありがとうございました。来月からは、久留米シティプラザからゲストを迎えて『久留米の昔ばなし』をテーマにお届けします。お楽しみに。